大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正七年三月二十八日印刷納本
大正七年四月一日發行（毎月一回一日）發行

新眞婦人

四月號
六周年記念（第六）

院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤

東京麹町三番町三十番地（市ヶ谷見附内）

東洋内科醫院

電話（六二一番
番町（五一六番

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（従停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

君は今駒形あたりほとゝぎす

耕春女史筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(第六十號)

四月號

六週年記念號

本誌は本號で、六週年になりました顧れば山あり川あり、幾難關を突破してこゝまで參りました。之れは到底、私共の微力で出來たものではありません、一重に皆樣の御後援によることと感謝の外はありません。

どこまでも、小さくとも、清き流れを以て自任し、本誌の使命のある所に向つて、突進しますから、どうぞ倍舊の御後援を御願ひ致します。

思ふに今後幾年かは、誠に多事多難で、私共の心膽を寒からしむる樣な出來事が續出して參りましよう。果して然からば、婦人も亦た非常の覺悟をせねばなりますまい。それに就ては、ダン〳〵號を追うて論述して行きます。

時局重大、私共の任務も益々重きを加へて來た次第であります。

時局重大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校から社會へ出んとする婦人と其父母に

西川文子

女學校出の若い婦人が、家庭向の實際の役に立たぬと云ふ非難の聲は、今に始まつた事ではなく、十數年來否恐らく女學校が始まつて以來の聲であらうと思ひますけれども、今の婦人が昔の婦人に比して一般に役にたゝぬと云ふ事ならばいざ知らず、女學校出の婦人が特に役に立たぬのだとは私は思ひません。女學校出の婦人の中にも大に役にたつ人と役に立たぬ人とありましやう、又學校生活をしない婦人にも役に立つ人とたゝぬ人とありましやう。

要は學校教育の如何と云ふよりは、主として家庭教育による事と思ひます。

女學校教育の不徹底

それは一面には女學校の教育が徹底してゐないのは確かです。徒らに試驗を主とする事は惡いと云ふので學校では既に十年來競爭試驗、席順を云々する試驗は廢してゐるのですが、生徒はやはり何が何でも優等がいゝと云ふ樣に、他事はどうあつても學校の試驗勉强のみに盡粹すると云ふ傾がないとは云はれません。それは學校の主意が本當に徹底してゐないからです。學校が眞に役に立つ婦人を育てやうとするならば、實力實地勞働、知識も暗記知識でなく確實なる生きた知識を授け働かせると云ふ方針で奬勵し、生徒に會得させなくてはなりません。それには先づ其の精神から培かはなくてはなりません。私は此頃或人の『娘を成蹊女學校に入れて』と云ふのを見て深く感じました、其一節に、左の如くあります。

××夫人——『人生の行路に於てはその身先づ苦むことが必要であ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る』と云ふことも、あなたの能くおつしやる所ですが、實際いろ〳〵の仕事を課せられて働かされるほど幸福なことはありません。意氣地の無い私の娘が近來目立つてしつかりして來たのは、この働く敎育を受けた結果に外ならぬことゝ信じます。あなたの前に自分の娘の自慢話な申上げるやうになつて相濟みませんが、實際彼は朝早く出かけて夕方遲くかへり、降つても照つても、甘い親の目から見れば、可哀相に思はれる程の仕事を平氣で片付けて、何等の不平もなく、何等の愚痴も言はずに、喜んで通學してゐるではありませんか、これを貰い學校のたまものと言はずして、何と申しませう。先達も斯ういふことが御座いました。うちの者が一緒に三人も病氣しまして手が足りませんので、學校を休んで看護をせよと言ひつけました所が、いやがるやうな樣子の見えぬばかりで無く、『これが本當の活きた學問ですから』と快く缺席して働いてゐました。働くことが最上の學問であるといふ中村先生や栢野先生のお考へが生徒の頭に斯くも能く徹底してゐるかと思ふと、眞に喜ばしさに堪へません。

父母の敎育方針

學校敎育の徹底はもとより必要ですが、尙それよりも父母の敎育方針、意見と云ふものが徹底してゐなければなりません。學校は何と云つても大勢の事で、生徒の家庭の事情も、各個人性も又其將來も同一でないのですから、學校の方針としては徹底してゐてもそれを各自生徒に當はめては、悉く當を得てゐるとは限りません。で父母は先づ家庭の事情と子女の個性を知り然かく〳〵の敎育を施したいと希望するならば其主意に適した學校に入れると云ふ事が先づ第一步です。してそれからは其方針で學校と相待つて學校は新知識を授け敎へて貰ふ處、家庭は實地復習練磨する處と思つてゐなければなりません。たとへば若し其子女をして學者にしやう、洋行でもさせやうと云ふのならば（婦人だからとて私はあながち家庭婦人のみに仕立てねばならぬとは思ひません）家庭の仕事は犧牲にしても學理を硏めさせ、又語學を練習さす爲めに時間を費さねばならぬでしやう、が若し、將來普通の主婦として過させやうとするならば徒らに試驗勉强の爲めに終日を暗記に用ゐさせる樣な事はたとへ試驗中と雖もしなくて毎日の課業を復習二時間家庭の手傳二時間とすれば、それを不規律にならぬやうに絕えずさせると云ふ樣に終始一貫した方針を取らなくてはならぬ筈です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

學校敎育の徹底

學者を育てるとしても普通の婦人を養成するとしても學校の敎育の仕方としては徹頭徹尾成績の爲めにすると云ふ風でなくて、確實なる知識徹底せる何ものかを握らせねばならぬ筈です、無論當局者も生徒自身も昔とは大分變り今日では大變にそこに氣がつき一日一日と確實になりつゝあるのは喜ばしい事です。之れは一はかの速成何々女學校とか技藝學校とか云ふ技術的の學校が案外成績を上げつゝあるのに對して、普通の女學校では只にお孃さんの守をしお伽をし、嫁入道具として免狀を渡すに過ぎぬなどゝ云ふ非難もあり、實際さう云ふ觀もないでもなかつた爲めに、それ等の學校に刺激されだん／＼に技藝學校の如く實際の成績を擧ぐる樣になつて來たのです。併かしものには一得一失あるもので、技藝學校は技術に於てめざましい成績を上げる事もあるがやゝともすると一種の職人かの樣に、精神上の修養がおろそかになり品性の上で見劣りのする事になる恐れがあります、で職業敎育技藝を主とする敎育を施さんとする學校及び其父母は層一層其の點に注意しなくてはならぬと思ひます。其の反對に又精神敎育を主とする學校等ではどうかすると理想にのみ走り空論に流れ、知識技藝勞働を輕んじ厭ふ惡風を不知不識養成される恐れがありませす。で尤も其の點を注意しなくてはなりません。

家庭敎育

父母は在學中と雖も娘に家庭の仕事を手傳はす事は必要な事です、娘を學校にのみ依賴しておくと云ふのはいけません、何事でも或時期に學び習ひ習慣をつけておかなければ一生その事をするのが大儀でならぬものです。家庭に子女を躾る爲めに不便な事があれば改良する事も必要でしやう、私なども田舍で育つて家が馬鹿にだゝ廣くて一々下駄をはいて行かなければ井戸端にも納屋にも行かれず働き難かつた所から一から十迄人を煩はせた結果、家庭の仕事に不馴で大儀でして

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くれる人がなければ止むを得ずする樣なもの丶、して呉れる人があると仕難くて困ります。これは全く娘時代によき習慣がつかなかつた爲めです。それと一つには寄宿舍生活を長くしてゐた爲めです、寄宿舍でももとより掃除も炊事も一通りは仕なければならなかつた樣なもの丶、同じほどの若いもののみ同居してゐる寄宿舍などでは、どうしても實際と云ふことよりは勉强などに重きを置く樣になるのは止むを得ない事です。

けれども今日の都會の生活の如く瓦斯も水道も目と鼻の先にあり一寸拭き掃除をするにも坐つてゐて出來る樣ならば小供にも出來ます、もつと完備した水ももらぬ臺所、行屆いた洗濯場の設備などがあればそれさへ小供で出來ます。新らしい知識文明の餘澤で以て家庭を改良して行くと云ふ事は日一日と必要になつて行きます。たとへばランプであつた時代には石油が無くなつたの、消えたのと云つて夜中に仕事をする事は出來難かつたのですが、この頃の樣に電氣で何の世話もいらないと宵の中は小供を遊ばしてやつたり、みてやつても寢かせてから夜中に讀書する事もかく事も出來ます、私は其の點に於て文明と云ふものにつく〴〵感謝してゐるのです。

卒業してから

勿論娘は在學時代と云つても一定の時間丈け復習させれば、家事を手傳せねばなりませんが、卒業後は尙更家事の手傳をさせるがよいと思ひます。尤も女學校時代は長所であつたものでももつと習得したいと云ふものを特にこれから習はふと云ふ人もありましやう、なほ高等の敎育を受けやうと云ふ人もありましやう、中にはすぐ結婚をする人もありましやう、けれども大多數は一先づ家庭の人となられる樣です、そして今迄は學校で何となく押へつけられてゐたのをホツトした氣分になつて、ぶら〳〵してゐる人も可成ある樣です。尙結婚するにしても普通女學校卒業後四五ケ年間はあるものと見てい丶でせう、その數年間が尤も大切な有效に用ゐねばならぬ時期だと思ひます、處が此の期間

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はまだ自己の家庭でもないし充分腕を振ふ時期でもないと云ふ處から、手持無沙汰にぶら〳〵とふくれ勝に過し親も持餘し娘自身も不愉快に送る樣な事になります。

如何なる境遇にあつても自己を有用にすると云ふ事ほど愉快な事はないのですから、家庭にあつて母親の手傳と云ふよりは母親の代理として家事を執らしむるもよいでしやう、又商賣ならば商賣を見習はせるもよいでしやう、各家業、營業としてゐる事を手傳はせるがよろしい、又若し月給取の家庭などで家に職業のない所では職業敎育を受けさせるのもよろしい、それは美術技藝敎員內職と種類は樣々ありましやうが、身分相應の職を習ひ暇ある限り就職すると云ふ方針を取るのもよいでしやう。身心と時間とを空費すると云ふ事は怠惰な惡習慣をつけ娘自身と其家庭の空氣を頗ぶる不愉快ならしむるものだと思ひます。

おたい明神

波浮におたいと云ふ女の物語が傳つてゐる。それは斯樣である。

豐太閤朝鮮征伐のときに小西行長の軍勢が朝鮮の一女子を生擒つて送つた。太閤は養育してこれを德川家康にやつた。家康は此時靜岡に居た。然るに靜岡には當時天主敎が行はれて居たが此婦人もいつしか信者となり、洗禮さへうけた。家康はいろ〳〵手段を講じてその信者たることをやめさせようとしたがどうしてもやめなかつた。節操を賣る娼家にやるか、脫敎するかと云つてもやめなかつた。そこで慶長十七年これを大島へ遠島申付けたのである。

此婦人天主敎を信じた時「ヂユリヤ」と云ふ名を貰つてゐた。靜岡から徒歩で伊豆網代へ來てやがて大島に渡つた。大島にあるや常に祈禱を怠らなかつた。在島一ケ月ばかりにして更に新島にうつされた。其時新島にも大奧に仕へた一婦人が天主敎を信じた爲流されてゐたのがあつた。二人は互に友を得て大にその信仰を强めた。そこで更にこれを神津島に送られた。そこでこゝに春秋四十年を送つて歿したが故國をはなれてたよりなき身には、强き信仰を以てかくまでも憂き目を見た。

ヂユリヤは日本語でオタと呼ぶさうだ。そこで此婦人をいつの頃よりかオタと呼んで明神と崇め、波浮の「筆島」と云ふ附近にそれが石碑のやうなものをたて迷信のものに何やらの事を授けたまふと云ふことだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校卒業生への訓言

性の教育を受けよ

第一高等女學校教頭　市川源三

それに於ては、卒業後直ぐ就職せねばならぬものと結婚まで遊んで居てよいものとを區別して話さねばなりませぬ。職業に就くものは別とし、結婚まで遊んで居るものに向つては私は性の教育を受けよとおスヽメしたいのであります。

私の學校の統計から申しますと、一番早いのは卒業すると直ぐ結婚し、一番遲いのは十年後に結婚して居ます。平均すると五年後に結婚することになつて居ます。それで卒業後四五年は親の家で遊んで居るものと見てお話するのですが、其の間親子差向で結婚の話ばかりして居るのは、氣のきかぬことです。或所に親子毎日結婚の話ばかりしつゝ七年を過ごしたと云ふのがあります。それよりは其の間の年月を利用して、性の教育を受けては如何です。今少しく男子と云ふものを了解する爲めに、男女の社會的關係を了解する爲めに、男子の職業を理解する爲めに、此等のことに關し女學校の教育丈けではなりません。

私の學校を本年卒業するもの百十名、其の中三十餘名は、更に進んで高等の教育を受けることになつて居ます。昨年に比すると、一寸倍です。之れは女學校の教育丈けでは足らぬと云ふことの分つて來た證據で、悦こぶべきことであります。

家庭は人物を造る土臺

法學博士　山脇玄

女學校の方では、學校に通ひながらも、家事の手傳をせよと、喧ましく云つてるのであらうが、どうも父

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母が甘くて、本人が氣儘で、家事の手傳をせぬ女學生が多い樣です。ソウ云ふ習慣があるので、卒業後も家事の手傳をせぬものが多いらしい。之れは實に悲しむべきことであります。

學校で凡てが習へると思へるは大きな誤解である。學校で習ふのはホンの一端であつて、母の手傳をしながら練習せねば、到底將來主婦として役に立つ婦人にはなれません。

女學校卒業の方々は、よく／＼家庭が人物を造る土臺であることを考へて、家庭で練習と云ふことを怠らぬ樣、おス丶メ致します。

偉大なる人を造れ

千代田高等女學校長　泉　道雄

私の方では、止むを得ずしての職業で、妻となり、母となる方が、婦人の天職である、婦人はそれを自覺せねばならぬと云ふことを、常に敎へ、卒業生にも無論さう云つて居ます。

近頃或婦人が『婦人も、偉大なる人物を造るよりも自から偉大となることを第一とせねばならぬ』と書かれたが、私の方は、それとは反對で、自から偉大になるよりは、偉大なる人物を造る方が婦人の爲すべきことだと敎へて居ます。何某女史と云はる丶婦人になるよりは、ナポレオンの母、ワシントンの母となるのがよいのであつて、寧ろ隱れたる力、そこに婦人の特色があるのですと敎へて居ます。

○

以前私の學校に、一人の老先生が居て、其人は卒業生の家庭訪問を專門の仕事の樣にし、よく卒業生の家庭の事情に通じて居ました。其の先生が一人困つて居る卒業生を見出し、他の卒業生に紹介して、裁縫の仕事を出して貰うてやつたりして、其の人を助けたことがありました。

○

私の學校から十年間に、三百名近くの卒業生を出しましたが、不緣になつたのはたつた二人です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭の人となれ

東京女學校敎頭
文學士　小川銀次郎

當校は明治卅六年の創立で卒業生千百五十人の中十人乃至十五人しか職についてゐるものはない、特別の事情があれば別ですが事情の許す限りは家庭の人となれと云つてゐるからです。學校丈けでは理窟や常識は養成されるけれど實務になるとまだ〳〵です、在學中復習は二時間半位すればよいから家庭の事を大にやれと云つてゐます、夏期休業は勿論冬期休暇などはお母樣の手傳を大にする樣にと云つてゐます、卒業してからは第一に作法、裁縫、割烹をしなければならぬ、この補習科に入るとよいが卒業を待づてゐる位だからなか〳〵入らない、姑舅のあるのを嫌つてはいかぬ、喜んで行つて家風を敎へて貰はんければならぬ。學校にゐる時は運動をするが、お孃さんになつて運動をせぬ、家事をせぬと病氣になる、自身の不利益なるのみならず國家の爲めにもならぬと云ふ事を大に云ひ聞かしてゐます。何でも勞せずよく働く習慣をつけたい、口で云ふのみでなく實行させたいと思つてゐますので當校の卒業生は質素で能く働くと云ふ評判です。

海外に出る事も大に奬勵してゐますので、アメリカ、シンガポール、シドニー浦鹽に行つてゐます、皆家庭の人となつた。蒙古のカラチンスの家庭敎師になつて行つた人もありましたが、アメリカに行つて嫁してから亡くなりました。

學校と家庭との連絡

學校と家庭との連絡を計る爲には、第一に年に一二回父母懇話會を開いて來て貰ふ事にしてゐますが、よい生徒の父母しか來ないものですから、玆では開校以來入學の資格を得ると、入學式には生徒と一しよに父母に必ず來て貰ふ事にしてゐます、そして當校の趣意を校長が先づ話されます。校長の勤儉努力は眞に御自身の經て來られた有のまゝを修身に話されるに過ぎません。それから私丈けでも一時間一時間半も話しこれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これの趣意だからそれを守り得る人賛成な人は入學して、守られぬ人は入學して呉れるなと云つておくのです。いよ／＼入學すると通學簿と云ふを一々やり毎日捺印して來る樣になり、通信の欄によつて、家庭からも學校からも通信する事が出來る樣になつてゐます、これが有力なる家庭・學校の連絡になります。又毎學期の終りに成績の如何はしいもの操行の上に身體の上に注意すべきものには皆ハガキを出します。それが六百五十人の中九十人位はあります、そして來て貰つて別々の部屋で別々に話します。尙急を要するものには何度でもさし紙をつけて呼び出します、決して家庭訪問はしません、普通の事は受持敎師でも、家庭上のむづかしい問題等になると私が面會します。

校外の取締

當校では特に校外の取締と云ふ事に注意して居ります。

開校當時は女の郵便局に通ふのも、職工、淫賣婦に至るまで袴をつけた頃ですから、目印になる樣に袴に筋をつけ色を一定しました、學校も見て貰ひたいし、生徒も油斷がならぬからです。白粉をつけ出す、勉強をして來なくなると注意して未然にふせぎます、警察署長も電車でも保護して呉れます、男生徒と一しよに乘せぬ樣にするとか、充分連絡がついて居てすぐに報告が參ります。

目に見えぬ所に働く女

三田高等女學校 戸板裁縫女學校長　戸板せき子

こゝはね、實務的の學校ですから、やはり卒業後も無駄にしない樣に家庭の事をしながらも働く樣にすゝめてゐます。技藝は習つた丈では駄目ですが、馴れゝば馴れる程上達もし、興味も湧いて來ますから、女は女としての自覺として、遊んでゐるのは人間の務めではない、小供を集めて敎へるなり、縫つて上げるなり、自分の進歩の爲めにも、社會や人樣の爲めにも、何かしなければならぬと云ふ事をくれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぐれも云ひ聞かしてゐます。女として働くと云ふ事を自覺させるのが一番だと思ひます。目に見えない處の女の働が基礎となつて、一身一家がをさまり、引いては一國がをさまつて行くのだと私は思つてゐます。主婦として充分働くと云ふ事はもとよりですが、もつと積極的に働いて欲しいと思ひます。

卒業後若し困る人がある場合どうするかと云ふんですか、こゝではめつたにそんな人はありませんが、それでも夫に死なれたとか、病氣とか不幸の境遇に逢ふ事もありませうが、そんな人は少しも遠慮なしに尋ねて來て欲しいと思ひます。なか〳〵尋ねて來る人がありませんが、先達ても來た人がありましたが、それ〴〵話してよい處に世話をして上げたり、仕事を目つけてあげたりしました。同じ人でも用ひ處によつて違ふのですから、五圓より取れない人も世話の仕樣では十五圓も取れると云つた樣なものです。どうかだまつてゐないで尋ねて來て欲しいものだと思ひます。

母の手許で家事の實習

立教高等女學校長　小林彦五郎

私は米國で年頃になつた娘に家中の鍵と一ケ月の費用とを渡して主婦の務を實習させて居た母親を見ました。客を招待する時でもこの娘が主婦役になつて招待狀を出し、當日の接待もするのでした。書物の學問ばかりして居た娘に活きた學問をさせるといふ上から誠に好い方法だと感心しましたが、家政を執ることやお客を接待することなどは婦人の大きな役目ですから、女學校を卒業したら、然るべき方法を以て實際にやらせたいものだと思ひます。親戚友人間における祝儀不祝儀についての贈答を適當にすることなども習はせておきたいことでありますが、これらのことを一々敎へることが面倒なところから母親がしてしまふといふことは、娘に對して不親切なことだと思ひます。

それから裁縫・料理といふことですが、ある西洋人が日本では學校を卒業すると仕立ものを稽古させてそれから嫁にやる。良人の話相手を作らずに仕立屋を作るのだと云ひましたが、日本の今日の家庭の有樣からいへば仕立ものや料理が出來ないでは困る場合が多いから、これまた適當な方法をとつて學ばせることが極めて必要であると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種痘を發明する迄の苦心

醫學博士　瀬川昌世

一體人の體は、一度傳染病にかゝると、其の病氣に抵抗する力が出來て免疫性を得るものであります。そこで人工的に病氣に罹らせて抵抗力だけをあとに殘すやうにする、これが豫防注射といふのです、しかし其の免疫性は天然自然に罹つた病氣によつて得たものよりは効力が薄く、コレラは一年、種痘は五ケ年位の効果を認められて居ります。各種の豫防注射の中で、最も有効なものは天然痘の注射で、種痘をすることは一番安全な方法であります。天然痘は紀元前から世界的に流行して居たもので、十五六世紀頃印度、支那、土耳古に大流行のあつたことがありました。天然痘は其の時の病毒の濃い薄いにもより、又健康の如何にもより、重く罹ることも輕くて濟むこともあります。それで當時の人々は一生に一度は是非罹らればならぬ病氣であるからと思ひ、適當な時に自ら罹つて出來る丈け輕く濟ませやうとして、天然痘の傳染地へわざ〳〵子供を頼んで傳染させて貰ふ、卽ち買痘といふ習慣さへ起るやうになりました。其の後になつて輕い痘瘡の膿を植ゑたりしたこともありましたが、膿を乾かして毒の力を弱くして植ゑたらどんなものであらうかと考へられるやうになり布などにつけて干かしてする方法が世界的に流行したこともありました。しかしこんな方法で接種したのは唯輕いといふ丈で、やはり全身にパラ〳〵と出來たのであります、當時英國のロンドンには官設の接種所もありましたが、歷重い天然痘の流行することがありました。天然痘は人間のみならず牛にも馬にもありまして、牛の天然痘は全身には出來ず、其の牛の乳などを飲めば牛の疱瘡にかゝるといふ傳説などより、之を人間に應用したならばといふ說が唱へらるゝやうになりました。有名な種痘の創始者エドワード、ジエンナーは紀元千七百六十年から千八百年代の人ですが、種々苦心して種痘の方法を研究した末自分の子の八歲の男子に牛痘に罹つた牛飼の女の膿を植ゑた處、接種した處にだけ疱瘡が出來ました、それから三週間の後天然痘の膿を植ゑたけれど感染しませんでした、いよ〳〵それを確める爲めに二度も試みましたが、遂に感じませんでした。其後五歲の子に牛痘を植ゑその子の膿を取つて次々に五人の子に接種して初めて確信を得たのでした。痘苗は三ケ月から五ケ月の小牛の腹の毛をすつかり剃つて、よく消毒し、毒病を植ゑます。五六日してすつかり膿になりますが、それを搔き取つて、リスリンと石炭酸を混じ、密封して賣り出すのです。第一の種痘は、子が生れてから翌年の六月までにするのが最もよろしいのですが嬰兒で天然痘に罹ることがありますから、生れたばかりでも種痘するのがよろしい。しかし最も適當なのが五六ケ月目から七八ケ月目頃です又重大な病氣でない以上少し位の病氣ならば種痘して差支ありません。ついてから餘り熱がひどかつたり、長く熱が續いたりする時は他の病氣のある事も稀れにありますが、大抵は心配のないものです。第二期第三期は善感でも第一期のやうに完全に感ずることはありません。免疫質を得るのは種痘してから十日頃から始まり、一番確かなのは五六年位ですが、種痘したけれども天然痘にかゝつたなどといふのはまだ免疫質を得ない中に感染するからです。尙ほ今年の天然痘の毒力はなか〳〵強う御座います。

▲序に誌す　天然痘が流行るので齋聖堂の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

教育博物館では之が豫防と流行史に關する參考品を陳列して三月十二日から十七日迄觀覽せしめた、疱瘡が世紀前から支那にあつて六世紀時分歐洲に蔓延し又日本では聖武天皇天平七年初めて筑紫に傳はり醍醐天皇が疱瘡で崩御された記錄やら、牛痘の發明者ジエンナーが其の子に種痘して居る繪や牛痘以前の種痘法たる支那から傳はつた吹込疱瘡や人痘法やらの繪及び天然痘患者の模型や寫眞が氣味惡く列べられ嘉永年間に牛痘法が初めて輸入された時分、牛痘なすると牛顏になると恐れた迷信を防ぐ爲、醫者が配つた引札には牛に乘つて戰人が疱瘡神を槍で突いて居る繪がある、文久年間に疱瘡が流行した爲に疱瘡に關する繪卷が大分出た、疱瘡神が踊つて麻疹神が三味線を彈く大津繪に「はうそ神びつくり仰天し、イエ〳〵金ではござんせぬ金柑に烏犀角、ヤレ〳〵おさきへさんじましよ」なぞ書いてある、疱瘡合戰記と題した錦繪には鎧着た鮪の壽司の立廻りなどあり、麻疹能壽競食合といふ番付などあつて當時は疱瘡と麻疹とを混同して居た事などが窺はれる。其他牛痘の模型、種痘器、江戸時代に疱瘡神を祭つた俵蓋に紅色の御幣、赤飯を供へた模型やら疱瘡患者の小供に讀ます爲めに特に紅刷にした繪本などがある、それに流行年表には明治廿六年には四一八九八人の患者で一一八五二の死者、明治三十年に四一九四六人の患者で一二二七六人の死者を出した事などが示されてある。

中學に婦人の舍監

府下池袋なる成蹊中學校は校長中村春二氏の熱心なる經營の下に漸く其の眞價を有識者の間に認められ來りたるが今回同校舍監として栗田榮子女史を聘することゝなり來る四月より愈々其任に就く筈なりと云ふ、中學校の舍監に婦人を採用したるは恐らく同校が初めてゞしよう。

新女子大學

角筈に新設さるゝことになつて居る新女子大學の事に就き諸方より問合せがありますが、どう云ふ都合でか、まだ文部省が認可を致しませんので、同校でもまだ生徒の募集を始めて居りませぬ。

いよ〳〵開校と云ふことになりましたら、其のよし早速皆樣へ御知らせします。

健康劑の話（二）
植物ミルク フード

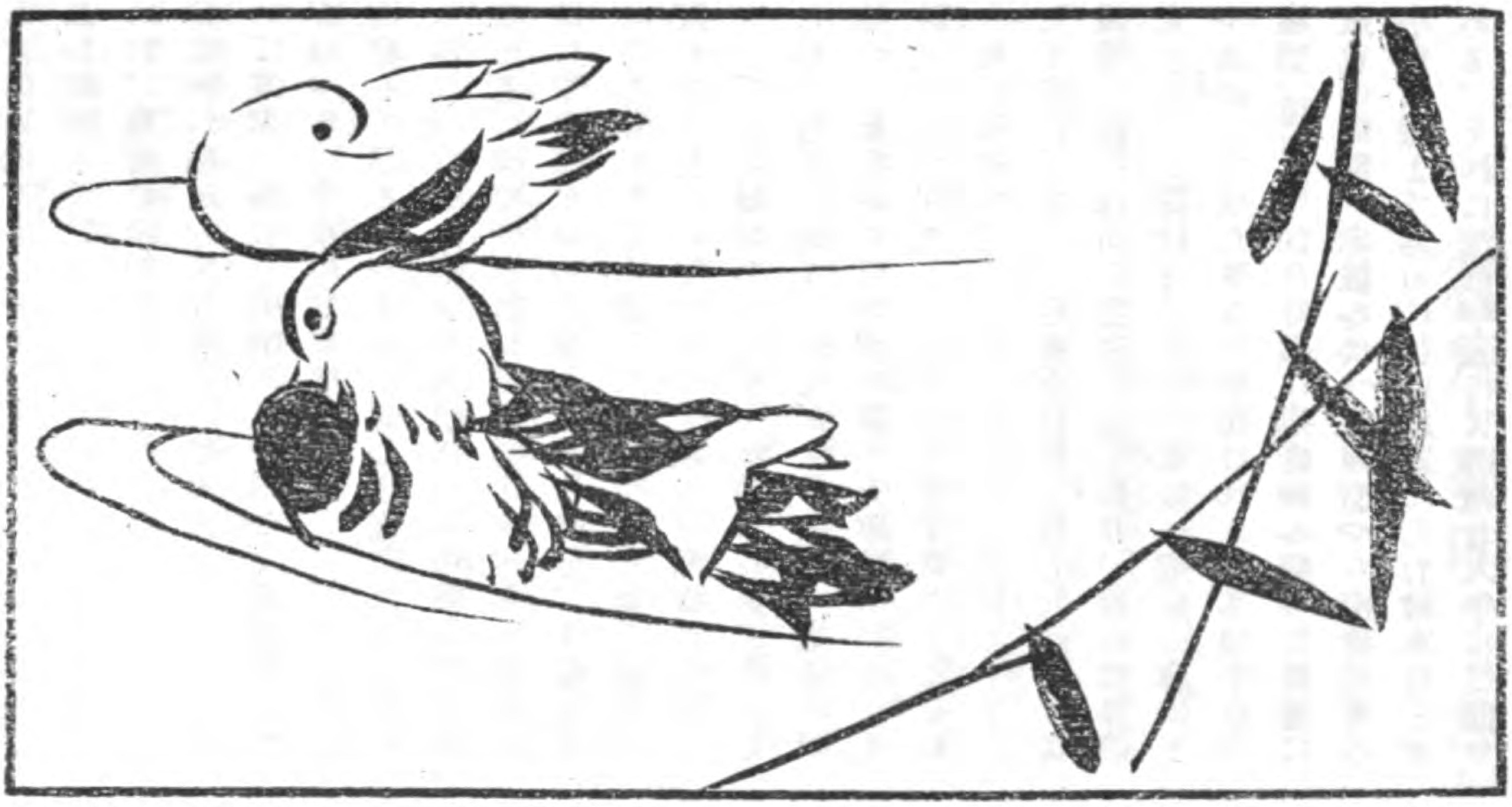
今度、新生園主吉川嚴氏の發明にかゝる植物ミルク フードが發賣さるゝに至りましたが之れは豆類、米類、及び麥類の營養成分を集め、最も消化し易き狀態に加工したものであつて、牛乳より安價で、而かも携帶に便利であります。

植物ミルク フードは元來牛乳の代用品として拵へられたものですが、又醫藥としての効能もありまして、胃腸を調へるに妙です。神經衰弱の人々にも偉効があると聞きます。

用法は茶匙に二杯ばかりを茶碗に入れ、之れに熱湯をかけながら、かきまはし、而して飮むのであります。一日三回一杯づゝ。

定價大箱五十錢、小箱三十錢、送料市内四錢、地方八錢、本社で取次致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



傳説

鴛鴦の愛

速川ゆくえ

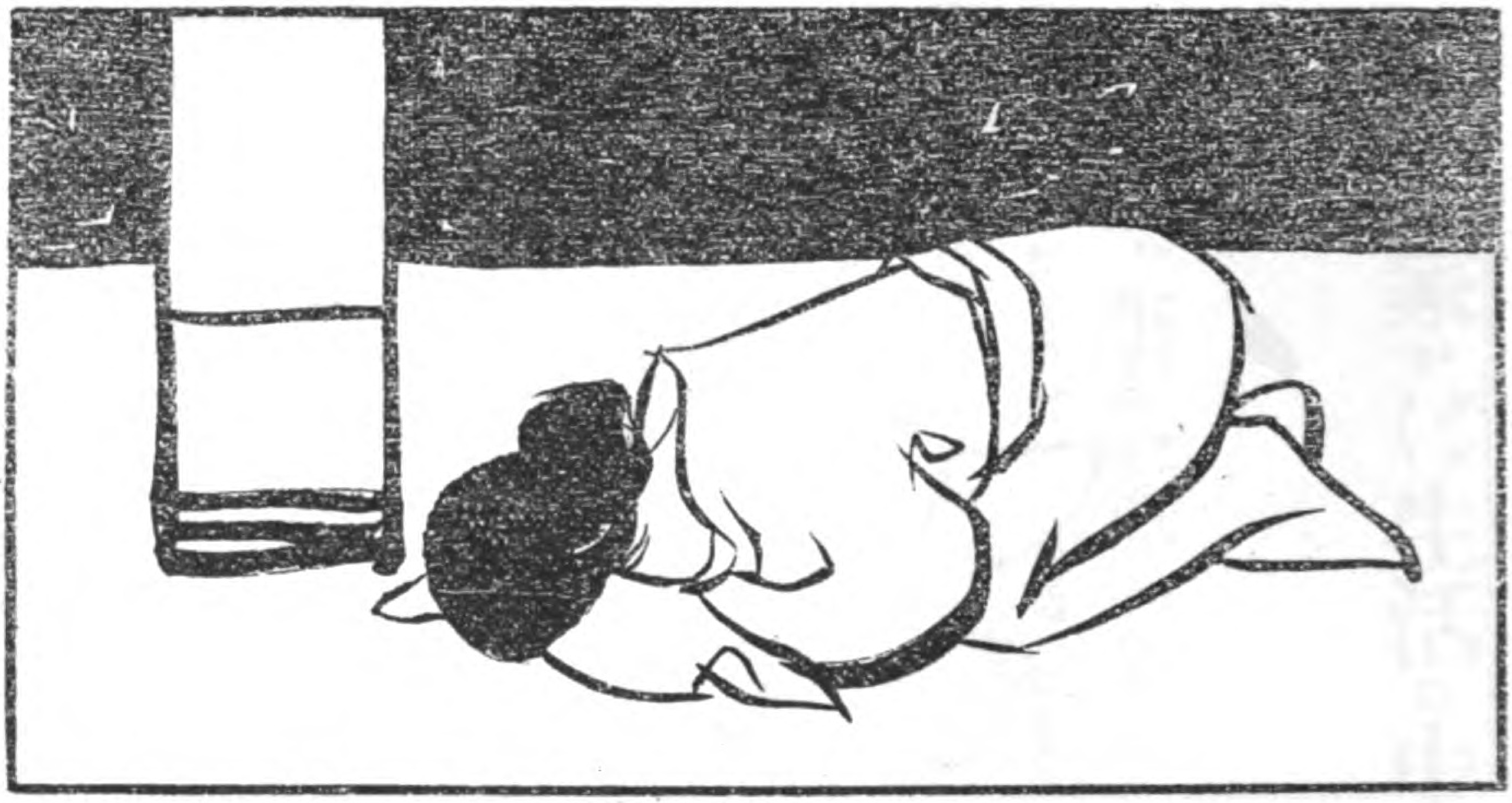
日暮るれば誘ひしものを赤沼の
　眞菰のかげのひとりねぞ憂き

夫婦の仲の睦じいのを鴛鴦に例へるのは昔からの事であります。まことに鴛鴦の情には人間に時々あるやうな例外が一つも見當らぬと申します。

今は昔、陸奥の國田村の郷に仙藏と云ふ男が住むで居りました。生來殺生が大好で一日一ぱい岩の上藪の中、所嫌はず鐵砲を擔いで駈け廻りました。この無慈悲な暴君に狩り立てられて田村の郷には空を飛ぶ鳥、地を這ふ獸の數が追々少なくなつて行く程でした。

ある朝。仙藏はいつもの通りの出立で赤沼の渡しに差しかかりました。それは秋のなかばでありました。そよそよと吹くは涼風。色付きまさる草葉枯葉に亂り敷く露の珠にはどむな名工も企て及ばぬ造化の意匠がありました。いづくより來るともなくいづくに向ふともなく太初變ら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ぬ姿をもつて無心の水は靜に流れて居ります。晴れ行く朝霧の大氣を震はせて菩提寺の鐘は響ゆたかに鳴り渡ります。仙藏はこの神々しき光景に對してそぞろに自然のうるはしさを覺えなかつたでせうか。しばしなりとも我を忘れて自然の愛に觸れたでせうか。決して、決して、そのやうな佛心は仙藏の生れてかつて思ひもよらぬ事でありました。彼が快心の笑をもらすのは斷末魔に苦しむ憐れな犧牲がぴくぴくとそのからだを震はす時であります。彼が一番不機嫌なのは運のよい獲物があつたら命拾ひをした時であります。

亂れ敷く眞菰の蔭を何の苦もなささうに泳いで居るのは美しい鴛鴦の番であります。今日も昨日のごとく明日も亦今日のやうに、何時まで樂しい日が續きませう。隼のやうな仙藏の眼はすでに彼等を見付けて居るのです。

靜けき朝の平和を破つて小筒の響は囂然と鳴り渡りました、硝煙やうやく晴るればまあ何と云ふ淺ましい事でせう。見果てぬ夢の眞中にいたでを受けた雄鳥が流るる水を血潮に掻き亂しながら羽擊の音も次第に細つて行きます。雌鳥はこの時どこにも見えませむでした。

其夜仙藏は惡夢に魘され通しました。枕元には若い女がしよむぼりと坐つて口說きつ怨みつよよと泣き崩れます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あなたは何の恨があつて妾の夫を殺しました。妾が夫の死をどむなに悲しむで居るかはあなたのやうな無情なかたには御存じがないでせう。けれども妾の夫をむごたらしく殺す事はまた妾を邪險にしいたげる事です。妾達は二人で居る時ばかり自由で仕合せでよろこばしいのであります。あなたは私達の自由を奪ひました。歡樂を奪ひました。生命を奪ひました。あなたは明朝赤沼においでになるでせう。不思議な事を御覧になるでせう。さうして何もかもお解りになるでせう」

さう云つて女は絶え入るやうに泣き續けます。

あくる朝仙藏はつかれ切つた頭を抱へてふらふらと夢遊病者のやうに赤沼のほとりにたどり着きました。静な水の面は昨日のままですけれども取り殘された雌鳥が獨りさびしく水を切つて居るのはまことに傷々しききはみであります。雌鳥は仙藏を見ても別に逃げようとも致しませむでした。却つて首を擡げて仙藏の方に近着いて參りました。さうして己れの嘴をもつて己れの喉笛をひきむしつてしまひました。

この哀れな雌鳥の最後を見ては鬼のやうな石のやうな仙藏の心にもかつて犯した罪業の恐ろしさがひしひしと目醒めて來ないではすみませむでした。放心したやうになつて我家に歸つた仙藏はそれから幾日かののち僧衣に身を固めて行衞さだめぬ雲水の旅に出でたちました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家がダン〳〵生活の中心でも興味の中心でもなくなりつゝあり

文學士　吉田靜致

家は元來、吾々の生活の中心でもあれば、興味の中心でもあつたものだが、現時の社會に於てはダン〳〵家は生活の中心でも、興味の中心でもなくなりつゝあります。

第一は申すまでもなく生活難の影響で、生活難の結果として結婚數は減少し、晩婚にもなり、産兒の數も減少して參りました。産兒數の減少に就ては、それは餘り御馳走を食べる樣になつたからだとの説や、智力進歩の結果だとの説などがあるが、此等は何れも事實に合はぬ説で、近頃ではニユース・ホルムの「故意に制限するからだ」と言ふ説が、最も正しいとせられて居ります。

第二は、敎育進歩の結果、婦人も個人主義に傾いて來た爲めである。其の爲め婦人の中に經濟上の獨立を要求するものや、家政に趣味をもたぬものが增えて來て、それが家の內から家の調和を破るの原因となりつつあるのです。

第三は新しき形の産業制度の影響である、昔は商業でも工業でも家庭でしたものであるが、工場や事務所が別に設けらるゝに至りし結果、男子は勿論婦人や子供までも、家を外にして働くこととなつた。そこで自然夫婦親子顏を合はす時間が少なくなり、其の顏を合す時間にも、時間の餘裕がないので、食事の準備も不十分である所から、途中で食事をする樣にもなつて參りました。婦人が勞働する樣になれば、夫に依賴しなくなり、子供が勞働する樣になれば、子供は親の訓練を悅こばない樣になつて參ります。

第四には、常に男子が家の外で行ふ他の婦人との不

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正關係が、家を破壞する一の原因となりつゝあるのです、之れは一は家の意義を理解せぬことから起り、二には男女で道德の標準が違うて居る所から起つて居るものであります。

それを救濟するには

第一には民法の改正が必要でありましよう。第二には家に對する正當な自覺を起さしむる教育が必要でありませう。第三には婦人や子供の勞働時間を制限し、姙婦を保護するが如き方法を講ずるとも必要でありませう。第四には優生學の見地から、國家が結婚に干渉することも必要でありませう。米國のマサチユセエッ、ウキスコンシン州などでは、結婚證明書を與ふるの制度を設け、此の證明書のなきものゝ結婚は公に認めぬことになつて居ります。

淘宮術と婦人

革新淘宮術會長　竹内師水

淘宮術開祖の歌に「氣をかけて是非とおもへば朝顔の開くことなき理りを知れ」といふのがあつて淘宮では、空氣引通しと稱し人の心と心とは互に幾百里を隔てゝ居ても感通するものであるから、此方で一方を呪んだり、恨んだりして居ると、向ふでも其氣が感じて此方を憎い奴だ、氣に喰はぬ奴だと思つて居り、此方で彼は愛すべき人である、好い人であると慕つて居ると、向ふでも其通り此方を懷しく慕はしい人と思つて居て呉れる、之を稱して空氣は引通しといふのである。況して朝夕起居を共にし、顏を見合せて居る間柄に於て、互に其短所を呪合ひ缺點を探合つて居るならば、其惡氣が向ふに反映するに極つて居る。無心の朝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

顔でさへ此方で朝起きて其蕾を見て、怎か彼れが開けば可いと凝と見詰めて居る間は、其氣が向ふに感じて開かぬものであるといふ歌の意であります。夫婦間に於ても妻が自分は恁して家に居て雨風にも當らずに居れども、主人は雨が降つても風が吹いても、一家を維持し、妻子を養ふ爲め、休息もせず、日々職務に鞅掌して居て下さる、有難い事であると、常に良人の勞苦を感謝して居れば、良人の方でも、妻が丈夫で、家事萬端から、子供の世話までやつて居て呉れゝばこそ、自分は、後顧の憂もなく、十分我が職務を盡すことが出來るのであるが妻に病氣でもされたり、不安心で家計も任せられぬやうな性質であつたら、自分は心置きなく外出も出來ぬのである、斯る良妻を得たのは誠に幸福であるといふ氣分になるが、之に反して主人は俺のお蔭で一家饑ゑも凍えもせず、安穏に此物價暴騰の世にも、暮して居れるのであるから、俺が家に歸つたら怎の樣に大切にしても可いのである抔と大天狗になつて居ると、妻の方でも、男は男の仕事があり、女は女の仕事があります、私とてもお留守に遊んで居るのではありません、子供の世話やら、裁縫やら、食事の用意やら男の分らぬ忙しい仕事をして居るのであります、女ほど割に合はぬものはない、私はツク〴〵男に生れて來なかつたのが悔しいと反抗する、恁いふ夫婦の間に平和な家庭のありやうがない、私の知合ひの某婦人が「客來」といふ和歌の課題に對して「めづらしき物まゐらせて主人振するも主人のあればなりけり」といふ歌を詠まれたとがある。歌としての巧拙は別として、其意味を考へて見ると、其夫を常日頃眞實に敬愛して居られることが分る、細君の親友が訪ひ來つた時、是れは臺灣名産の夏蜜柑であり、是れは北海道から贈つて來た林檎である、大層甘しいから食べて御覧なさいと、チヤホヤ主人振して饗應の出來るのも、みんな主人が無事壯健で職務に從事して居て下さるお蔭であると何事に付いても、良人を思はれる至情が露はれて居る、此一家の平常如何に圓滿平和であるかも想像されるではありませんか、此婦人は熱心なる淘宮の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

古い修行者であります。淘宮術といふものは、各自が己れの先天的に稟けて來た性癖を巨細に知つて、之を矯正して往く修行であつて、克己反省の最捷徑である、一家の治まるも治まらぬも人と交際が圓滿に往くも往かぬも、歸する所は、人々が自分の缺點や短處を棚へ上げて置いて、相手のアラばかり探し出し、人をして自分の偏むいた氣癖に適合させようとするより生じて來ることである。其自己の性癖を詳知するのは淘宮に入るより外はないと思ひます。

戰爭の勝敗と食物の節約

こゝに揭げある自動車中の婦人は、之れにて諸處を駈け廻はり、米國各家庭の主婦達に食物の節約と、代用品の使用法、戰時の料理法などに就て、敎へて行くことを其の仕事とせる人達であつて、自動車の周圍に貼つてある張紙の文字は

△若し婦人の臺所に於ける後援なかりせば男子は戰場に於て勝利を得ることが出來ない。

△牛豚の類は高價の穀物を食す、然るに魚類は飼料を要せず、故に魚類を多く食べるがよい。

△脂肪は軍人の動力なり、可成食物は炙き又は煮て用ひ、油を用ゐて揚げぬ樣にして欲しい。

△戰爭に加はりて、國家に盡す能はざる婦人は臺所及び食事に於て國家に盡されよ。

などである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

職業に就ての婦人の考が徹底して居ない

シンガーミシン院主幹　宗田寛

（記者）何でも習ふ時は大變いゝ樣な話でも實際仕事にしようと云ふ時になるとなか〳〵ないものですが、ミシンを習つても其の仕事があるものでしやうか、とはよく相談を受ける事ですからシンガーミシン院の宗田先生について伺ひましたら次の樣なお話でした。

六ヶ月卒業した丈けでも刺繍は一寸したものは出來ます、下縫の心得の十分ある人は早く上等のものでも縫へますが、下縫の素養のない人は一寸むづかしいのです。仕事はしやうと思へばいくらでもあります。上等下等共ソレ〳〵いくらもあるのですが今日の社會では頼みたい人と、就職したい人とがありながら、其連絡がなくて問屋に馬鹿に口錢を取られて雙方共困つてゐる狀態です。でこゝでは何とかしてそこの連絡をよく世話をして雙方の滿足される樣にしたいと思つてゐます、が婦人の家庭の副業内職に就ての考が徹底してゐないので困るのです、男子は生活の責任を負ひ職業をするのは當然だと思つてゐるが、婦人は所謂内職であつて、してもしなくてもよいものをすると云ふ考が拔けない、その爲めに仕事を引受けても約束を守らない、見本通りに忠實にしない、來客があつたの、病人があつて家庭の仕事があつたのと云ふ、少しやかましく云へばそんなに面倒な思ひをしてまで何も私はこれで食べてゐるのぢやない、食べなくちやならぬと云ふのぢやありませんからやめますと云はれます。私は仕事をする以上さう云ふものではない、内職と云ひながらしてもしなくてもよいと云ふものではなからうと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭工業を盛にするにも、婦人問題の主たる婦人職業を解決するにも此根本の精神が解決されなければ到底駄目です、東京の工業製作品等が大阪名古屋に壓倒されてゐるのもそこにあると思はれます。一面には眞劍に生活の爲めに勞働する人もあります、これは比較的眞面目に仕事はするが、又信用の出來ぬ點もあつて例へばこゝに立派な眞綿入りの胴着で一寸刺繡をしてほんの少しばかり縫へばよいのですが、一枚五六十錢にもなる割のよい仕事が引受けるとなるといくらでもある仕事ですけれども一寸これは今の處では外には出しかねます、眞綿を一枚や二枚少く入れても分りませんから、斯く一つ場處に集つて、工場に出て來てするには一定の時間もかゝりますが、若しこれを中流の堅實なる家庭の令孃なり婦人なりが家庭の餘暇ですると云ふ事になると、頗ぶる自由に出來ます。然も三枚でも五枚でも、約束した丈けは約束の時刻迄に見本通りに出來ると云ふ事になると、方々の家庭に托して出來ますからいくらでも引受けられるわけです。處が今日の社會ではまだそれが出來ません、家庭工業を盛にし社會の爲めにも、且つ自家の爲めにもなる樣に婦人に大に奮發して働いて欲しいと思ふのです。

附記　院には研究部と云ふものがありまして一通り習得した人が專門に年中研究してゐられます、それはお召でもどんな二枚重ねの小袖でも何でもミシンで仕立てゝ解くにも地質を少しもいためず、仕立上げは頗ぶるキチンと體裁もよく爲めにもよいと云ふことを研究して仕立てゝゐられます。記者が參觀した時にも研究に熱心なる某博士夫人のお召が見事に仕立られてありました。研究の爲めですから皆樣の中でお願ひしたいとお思ひになる方がありましたら、喜んで仕立てゝ下さいます。その他刺繡部でも刺繡のみの摸樣を始め風呂敷ハンカチさま〲の精巧なる美しいものを研究してゐられます。私は參觀してゐる中に小學校卒業後學資の乏しい人、年月の少ない人その他普通裁縫を習つた人、殊に器用なる指先の先天的に發達した人はなまじつかに不得手な數學に頭を惱まし其効なき不徹底なる敎育を受けんよりはかう云ふ美くしい仕事に心を樂ましめ且收益をも計らうと云ふのはいゝと思ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の世

黒百合

女一人の家持ち萬事に不如意勝である、たとへば一寸外出するにも一々家を閉ぢ、鍵をかけねばならぬ、そんなこんなの面倒から下宿住居をして見たところが、留守番の心配は入らぬがさてまた此處には此處でうるさい面倒がある。雨が降らねば空氣が乾き過ぎて咽喉が惡くなると云ふ、降れば降るで出入りがうるさい。實に人の世程やつかいなものはないと、つくづく思はせられる。諺に「兩頬好いには頬被り」と云ふ、それさへ鼻を如何せんと云ふのであれば、要は先づ自己を後まはしにして考へねばならぬかと思ふ、自分の都合の好い樣にのみ思ひ、萬事を要求するから事が面倒になるのである。嫁と姑、はた小姑との間の難かしいのも、矢張り自分本位であるからだと切に思はされた。一個の人である以上、各自意見がある、了見がある、それを自分の意見通り、了見通りに仕樣とするから事が面倒にもなり、面白からぬ樣にもなる、夫妻の間にも必ずそんな事があるであらうと思ふ。それにしても人各自自から通つた道でなくてはわからぬ、若い時にはなぜ老人が、かた豆やかたもちが食べられないかと思ひ、なぜ腰が痛むなど丶云つたりするかと思つたが、さて其時期に達して見て初めて知るのであるが、若い人は必ず老人を眞心からいたはらねばならぬと思ふが、なか／＼老人をいたはる程の人は少ないそしてまた年とつたものは、若い人の足らぬ勝なのを昔時自分の其時代を思つて忍耐せねばならぬと思ふ。氣のきかないのも手落ちの多いのも若い者にはあり勝ちである、それは是非がないのである。要は『人を各自、己に勝れりとせよ』との主の御言葉を服膺し愛を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以て事に當り凡ての事感謝して受くるにあるのだなどと、姑の氣むづかしいのに、苦しがつて閉口して居るはなしを聞いて感じたまゝに。

○

急に移轉せねばならぬ事となつた、廣からぬ市ではあるが、空家もないではない、澤山ある、しかし自分に相當したのがない、新築の家もある、日當りの良い家もあるが家賃は自分と同意せぬ、そんなこんなの面倒の中に一軒手頃なのがあつた、元より人の住居したものである。疊も新らしくかへ障子も張りかへて悉皆掃除して移つた、東西を開けた家で朝日夕日に苦しめられた經驗から南北向きを撰んだ、南の間は日當りがよけれど北は太陽見ずである、夏場風通しには申分はあるまい、けれど北風もまた身にしみる、數へ來れば何事にも不足は云はれるもの、まづ初めの願望は太陽當りであつた故、それで滿足して日々に感謝して暮す、借家などを手入するは馬鹿氣て居ると人は云へど、矢張り我が住む家、朝な夕な注意しての雜巾がけ、初めて入つた時とはなか〳〵の違ひ、自分ながら板のつやの付いたのに驚かされた、人の心も注意して、掃き清よめ、拭ひ清めて居つたなら、汚れも失せ、遂には御光のさす樣になる事ならんと樂しんで日々の雜巾がけにつとめて居る。

○

自殺々々何故かくばかり自殺者の多きや、自分は自殺とは全く大義に依つて止むなく爲す事と思ひ立派な心の人よと思つて居つたが、それは幼かつた時の事であつた、今日見聞きする事の何ぞ情けなきや、自分は決して其人々を非難するのではない、只々お氣の毒に思ふ、悶々の情やる方なくて遂に此所に至るのであらうが、何とかして救ひ眞の生命にあづからせて上げたいと思ふ、それにつけても信仰と望みと愛とを味はふ事が大切であると思ふが、何とぞ人皆が此三つのものを早く求め得らるゝ事を切望してやまぬのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人病の精神療法（下）

西川光二郎

（七）妊娠

妊娠中の注意として最も大切なることは、妊娠中と雖ども運動を怠つてはならぬ、と云ふことである。運動を怠つて家の内にばかり引込んで居ると、自然呼吸も不足となり、運動不足と呼吸不足とから、便秘、食慾不進、安眠が出來ないと云ふ風に、身體の具合が漸次に惡くなり、從て妊娠中の苦痛が堪へられぬ程になつて來る、平常の通りに運動さへして居れば、特別の理由のなき限り、婦人の身體は妊娠中反て健康であるべきのが、原則である。次に妊娠中脂肪分を大食すると分娩が困難で生れた小供が弱いと云ふから脂肪を多食せぬ樣注意せなくてはならない。

それから多くの婦人は妊娠の初期に於て切りに嘔吐を催すことがあるが、之れに對しては『之れは妊婦に有り勝ちのことで、何んでもない、母體にも胎兒にも少しも危險のあるものでない』と云つて、妊婦に安心を與ふる外に療法がない。昔、硝酸銀が此の場合の良藥であると云はれた時代、吐根の時代、コカインの時代、モルヒネの時代などがあつたが、何れも效力ありしは短かい間丈けで、無限に藥が變つて行つた。之れ藥其者よりも藥から得る暗示の方に效があると云ふ證據である。そこで今日は前述の如く『それは心配するに當らぬことだ』と云つて妊婦に安心を與ふるより外には方法がないと云ふことになつて居るのである。

（八）分娩

お産は難儀なもの、ツライものと思うて居ると、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れがいよ〱ツラクなる。昔は之れを何んとも思はなかつたから、實際何んでもなく濟んだ、今でも健康な婦人で、既に一人以上の小供あるものは、經驗もあることとて、恐れないからお產がいよ〱輕い。下層社會の健全な婦人になると、全くお產を何んとも思うて居ないから、分娩後直ぐ起きて働く位である。

分娩の時に、產婦の望むまゝに姿勢をかへさすと、一は姿勢を變へる時に、注意が苦痛から姿勢の方へ轉ずるからでもあらうが、苦痛輕減の上に效力がある、又小便をする時にさへ普通の時にする樣にせしめぬと小便が出ぬ位であるから、分娩の際、其の望む姿勢をとらしむることに效力のあることは、多言を要しないことである。

（九）保育

小牛を引き離した場合、牛は一時乳を出さず野獸を見て恐怖した場合にも、一時乳が出です、又嫌ひな人が來て乳を搾ると、乳の量が減ると云ふが、人間の場合でも同樣で、小供に對して愛情があれば、乳は多量に出で、然らざる時には乳の出方が少ないと云ふ。母が授乳して居る際、夫がソコへ這入て來ると母の心が夫の方へ轉ずるから、乳が細くなると云ふ位、乳と精神との關係は密接である。されば保育に第一に必要なるは、愛情であることは云ふまでもない。

（十）母の印象

妊娠中の母の心持其他が其の生るゝ子供の上に印象を殘すことは、古くから云はれて居ることであるが、併し母の神經は胎兒には通じて居ない、血液さへも、母のと、胎兒のとは別な位である、たゞ母の血液も、胎兒の血液も同じ養分で養はれて居ると云ふ丈けの關係しかない、されば妊娠中母の心掛けが宜しければ、生るゝ小供が健全で、自然に其の精神も健全であると云ふまでは云へるが、妊娠中、手のない女を使つて居たので、手のない子供が生れたとか、蛇を見て驚いたので、蛇の形が子供の胸について居たと云ふ樣なこと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、今の吾々の知識では說明が出來ない。

（十一）尿に關する病氣

心配したり、興憤したりすると、切りに小便に行きたくなり、恐怖すると小便が出たくなると云ふ程に、尿道は精神の影響を受けるものであるから、尿に關する病氣に最も效力あるは精神療法である。これまで尿に關する療法として效力ありし數多の療法が、何れも暫時の間效力を示して、直ぐ役に立たなくなつて行てるのに見ても、療法其者に力あるにあらずして、其の療法の暗示に力あつたのだと言ふことが知れる。

（十二）生殖器に關する病氣

男女ともに、少しでも生殖器に故障があると大變に之れを心配するから、少しのことを大げさな病氣にして居るのが常である。例へば其の爲め二晩も三晩も寢られない何事であるかと非常に心配して來た患者の中に、一寸した靜脈瘤が出來たに過ぎないものが少なくない、毎年若いもので自殺するものが少なくないが其の中に生殖器の病氣を氣にしてのも多いが之れなども初めから醫者に話をすれば何んでもないものを、一人で心配して、大げさな病氣にして仕舞うたのが多いのである、されば生殖器の病氣には、他の療法と共に、精神療法を併せ用ふべきである。

夢精などに就ても、之れを心配すればする程惡くなるもので、健康な人にありては、二週間に一度若しくば十日に一度はあるものと考へて、それを心配せず常の如く食事し、又常の如く戶外運動をして居れば、此の病氣は癒つて仕舞ふものである。

自慰の惡習慣を破るの方法も、心を他に轉するの工夫と戶外運動を盛んにすることより外にはないものである。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

化學的食養法より觀たる大豆

日本食療所長 石塚右玄

一口に大豆と云つても、黒大豆、黄大豆、緑大豆、雁喰豆などの數種あつて、其の化學的成分は皆多少異つては居るが、大體に於て百分中水分一、乃至一、三五プロセントと、脂肪一三、五乃至一八プロセント、澱粉二二乃至二五プロセント、纖維三乃至四プロセント、灰分四、五乃至五プロセント、榮養率二、二を含有して居り、我食養法の上から觀て穀類に次で最も必要な榮養價を有する食品であるといふとが出來る。

而して大豆の化學的組成中、有機性の蛋白、脂肪、澱粉に對立して人體に必要缺くべからざる無機性鹽類即ち灰分中に含まれて居る加里鹽と、那篤倫鹽所謂夫婦鹽を比較すると、那篤倫鹽一に對して約加里鹽四二といふ割合である、だから之が食養上の效果を全からしむるには、那篤倫鹽含有量の多い昆布の如きもの或は古澤庵の如きものと煮合せるとか、食鹽若しくば醬油の類を多く加へて食することが肝要である、此點から觀ても味噌の如きは最も日本人に適した滋養品であることが判るであらう、而已ならず邦人の如く穀類を主食としてゐる者は、澱粉消化素たるヂアスターゼを多量に含有して居る此の味噌を攝ることは必然のことである。

古來我國の俗諺に身體の健全、即ち達者なことを『まめ』といひ、殊に年頭の儀式的食品に『今年はまめで暮すやうに』といふ意味に於て煮豆を用ゐ、また舊八月は豆名月というて、十五夜の月に大豆の枝なりに豆を供ふ風習がある、如何にも詩的な處もあり、また圓滿具足の相ある豆を、圓滿具足(形が圓くて他の豆に比し成分が具足す)の十五夜の月に供ふることは一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種云ふべからざる敎訓も含んで居る樣にも思はれる。また味噌を身礎といふが如きは、單に國音の通づる處から來た附會の說であるといへば夫れ迄であるが、又一方、多年の間に於ける事實が證明して居るといふことも考へなくてはならぬのである。

次に大豆の類は莢から出したものを其儘食するからその皮膜に多くの纖維を含んで居る、此の纖維なるものは不消化物である。然し乍ら此の不消化物が適度に胃腸を刺戟して消化吸收を助け、且つ便通をよくするものであることを知らなければならぬ。

要するに大豆はその含有する化學的成分が、滋養價に富んで居ると同時に、莢から出した自然の儘之を食ふといふことが、食用上大に效果のある所以である（穀菽類の榮養となる成分は重にその皮肌の眞下に之を多く有するから、皮は可成剝かないやうにせねばならぬ、從つて皮を剝き去れば自然榮養ともなるべきものを皮と共に除去することになるのである）

白米の如く籾から出した自然のものを、更に人爲を加へて搗白して米の自然質、卽ち天然の滋養價を減損したものに比して、大豆は優に榮養に富んだ食物である。だから白米を常食して居る人々は、時々黑豆と食鹽を入れて炊いた飯を食ふがよい、比較的安價にして脚氣の豫防等には最も有效であると信ずるのである。

大豆の調製品として食養上佳良なるものを擧ぐれば、味噌、醬油、豆腐、納豆、ゆば、きなこ、煮豆、煎豆等である。

大豆料理二三種

西端學

普通大豆と云ふは黃大豆にて分析上から見れば蛋白脂肪も纖維（肉壁の寸莖）灰分（肉壁の漆喰其他）共

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

皆米麥に勝り只含水炭素のみ劣れり本草學上黄大豆の氣は溫味は甘にして中を寛げ氣を下し大便を利し水脹腫毒を消す然れども又多食（鹽分少く糖分多き料理）せば氣を壅ぎ痰を生じ咳を發し人をして身重からしむる害あり。

吉野豆腐

大豆を柔く水煮（水道の水河の水汲置きの井水又は重曹を少し加へ）擂鉢にて能摺潰し布袋に入れ鍋に漉込み吉野葛粉を大豆の三分一程交せ弱火に架け焦付かぬ様斷えず攪拌し程宜く煮えたる時錻力箱又は重箱に流込み凝め（急げば箱を七分目位冷水中に浸す）拔出し、賽形に切り薄餡又は淸汁を注けて召上ると好い。

簡易濱納豆

漸次時候も溫暖を加へ來りし故毎朝賣り來る納豆の如く黄大豆を蒸し且つ醱酵させ（或は納豆を其儘利用し）又梅漬中の紫蘇葉を天日に乾し極めて細末に揉潰し、絹篩に掛け之を醱酵せし大豆に毎日少し宛撒布して能く天日に乾揚げる時は少し酸味を帶び且光澤多き簡易濱納豆を作り得べし。

大豆の黄巻（早萌大豆）

本年の如く青物の缺乏せし時は東京市中も猶仙臺市以北の寒地市場に於けるが如く早萌大豆を賣る者あり本草學上之を大豆の黄巻と稱し筋骨の濕痛胃の積熱水病脹滿を治し婦人の惡血（古血）を破ると云ふ。

早萌大豆は汁の實胡麻油の煮付又は油揚の煮合等として召上る好し。

炊大豆粉（黄粉）

黄大豆又は青大豆を程宜く炒り甘皮と共に粉に挽潰し砂糖及鹽を少し加へ置き冷飯燒餅に撒布して小兒の間食と爲せば實に經濟的且健康保存上申分なき最良の菓子なり灰分皆無の洋風製菓は總て骨拔き腦拔き皮剝き筋拔きの人間を造る魔術と心得られ度し。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お隣りの鷄（二）

小村夏子

春來る、春來るといふ期待ほど今の私に、力強く響くものはない。勿論お前達の爲にもこの春來！といふ言がどれだけの安心でありませう。朔風に皮膚を傷つたほどのものにはもうこの辭だけにも、滿足があり、幸福なのです。深い皸の疼きも漸く思出となつた、今日此頃の街路には、物賣る女の籠にも若い春を象徴したオリーブや、鶸などの鮮明な色彩が運ばれて來た野の景趣の調べられつゝある歡も嬉しいが、なほ畑を富豐に爲し呉れるこの春の陽こそ、ほんたうに拜跪したいやうな、縋りつきたいやうな、否、もつと〳〵近よつて、この惱ましい額をぐいと埋めて了ひたいやうにも覺えるのです。

その暖々した慈母の掌の如な、光を脊にうけて、私は今靜に、ジャンクリストフの言を聽いてゐるのです。凝と俯てゐる私の胸は柔く……あの苗床のやうになつて來ました。勿體ない……早春の日はこの醜惡い自分をもゆるく被んで呉れてゐる――恰度母上の蒼白いお手が首に加はつた時の如に、春と書物とが頑固な私を和くさせてゐます。勿論お前達の爲にこの眩しい光線が惡からう筈もなし……ね、お隣の鷄！。

其上に、いゝえ第一に？私の小い子供達には玩具にもましたこれは賜物であります、成育期にある彼等は、どうして最早家居しては居ません、今日も其一兒は薄紫の野生のすみれを見つけたというて、栞にとて本へ挿入ていつて呉れました、道路を歩いても春の人が多くなり、足袋のない傷らしい子供らや、悲哀な物語的な辛い發見の少くなつて來たといふことは、眞實、大いなる喜悅であらねばなりません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お前達は多分關知せぬことでもあらうが、去年の晩秋から我々の小さな臺所を襲うて來た暴風雨が、今猶埃を立てつゝ趣味に乏しいこの下流に近い上品振つてゐる勞働者の家庭を一層慘めなものにしてゐます。私の極めて小さな經濟にまでも、其巨手は觸れ來て、お前達に上げたいと念ふ菜把をすら、躊躇させずには措かぬのである。ほんたうに捨てるだけのものしか投げて上げることが能きなくなつた……。お前達の大さわぎするあの綺麗な林檎の皮などは、此頃は滅多に剝く機もない……。それは然しまあ止むをえぬ事とも爲やう。然るにあれはたしか二度目の雪の陰慘な夕方だつたと憶ふ。クンクンクンと玄關脇になきごゑがするのではないか。折から雪投で着物の裾をぐしよ〳〵にして歸つたKが『おゝ寒かろ』と言つて泥まみれの小犬を火鉢の傍へ抱へて來た。『まあ可憐相に。あら慄へてゐるわ。』四方から劬はられてゐる其犬は焦茶色の艶氣のない、見るから貧相な尖つた顔付をして居た。けれども五人の人數で四人までが之を畜ひたい希望なのだから、其痩犬はとう〳〵緣の下に寢床を有つことにきめられて了つた。お給仕役は唯一の大人である私が爲ねばならぬといふことも、私自身にさへ當然のことゝ承認して了つた。素から犬は大好きだし、それが煩いことゝも、厭なことゝも思ひはしなかつたけれども、お恥しいことにはこの些とばかりのもの入りを氣にせねばならぬほど、彼女の手元は緊張してゐるのであつた今回の物價騰貴はそれほどの壓迫をあるものに加へて居るのです。小犬が來てからといふものはもうお前達に上げるものが無くなつた、――わがたましひの――臺所仕事の手のゆるむ時、恁う謳ふ癖をもつた私の聲に、以前の如く垣根に寄り添ふ、眞紅の鷄冠を見やる時、與げるものがない……今日も。とは言ひ難い………。私の足音をよくしつて居て吳れるお前達に、飼主があるからなどと……。

恁麼折にある仕事が私に與へられました。私はただもう感謝して、寒い街をカラコロと驅けまはりましたさうして、然うして、あゝさうして豫期せぬ體驗をえ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ましたよ。
小犬と鶏！。
私は今、お前達に與ふる何者をも有たない出歩いた前にもまして無一物であるけれども幸ひに春が來ました、今日は黒い土から煙の立つやうな日である、Tと一緒にはこべらをとつて來て上げやう。
本年ほど春を待つたことはない、花見衣はないけれども、春を迎へた私の感激は誰にもゆづらぬと思意つて居る。
春を來らした人格者が無くてはならぬ・・・とも感じ入りました。
強くなる爲めに苦むといふことは、什麽によいことぞと、彼は語つて居ます。強くなるか什うかは知りませんが、とにかく苦い經驗といふものは、私には敎師であらうと念ふのでした。其敎師の許へ手引して呉れたのはまさにお前達の深切であつた、お隣りの鶏。

青海波

山本勇夫

（上）

そのあとで、安火にあたつてゐ乍ら、茫然考へて居た時次郎は、いま門を出たおかねさんと貞子の足音がきこえなくなると、
『遂う遂う行つて了ひやがつたなッ』
と、忌々しさうに呟いて、仰のけに寢轉ろんだ。さうして凝つと眼を閉つて居たが、心の中はすこしも靜まらなかつた。丁度瓦斯體でも發生するやうに、腹立たしさが腹の底からむくむくと沸き上つてゐた。胸を突かれるやうな苛々しさを覺えた時次郎は、やがて起き直ると、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『畜生めッ』
　と、聲を出して呟いた。しかしそれは胸のこだわりを空かす足しにはならなかつた。彼はまた同じやうに續いて呟いて見たが、更に利目はなかつた。却つて、自分が何ものにか侮辱されたやうにさへ感じて、腹の中が渦巻くやうにごつた返して來たりしてゐた。
　彼はさうした苦痛から逃れようとして、そこにあつた新刊の雜誌を讀みかけたが、駄目であつた。荒れてゐる彼の頭腦は、視覺が透して來るそれを撥ねつけて、憤怒をその上にも助長させるように働いてゐた。で、自らを制御する力を失つた彼は、向ふの屏風を目がけて雜誌を投げつけざま、
『青海波が何れ程いゝんだッ』
　と、憎々しさうに呟いた。が、何の反響も起つて來ないので、投げつけられて目前に半開きになつて伏さつたまゝになつてゐる雜誌を、いつまでもいつまでも見詰めてゐた。すると、次第に憤怒の潮が退きかけて來た彼の心の中に、また冷たい寂しさが風のやうに襲つて深い穴へ向けて彼を引き込んで行つた。
　それは今朝のことであつた。
　神田に居る貞子の姉のおかねさんから、今日遊びに參上するといふ意味の手紙が貞子に宛てゝ來ると、時次郎はもう厭な氣持になつてゐた。時次郎はおかねさんを嫌つてゐるのではないが、おかねさんが來ると、彼は自分の爲たい仕事の手を止めて、對手になつてゐなければならないので、うるさいのであつた。
『貴郎は拘はずに何んでも爲ていらつしやればいゝのに！』
　いつも貞子はかういふし、時次郎自身もおかねさんにさうした氣兼の必要もないと思つて居乍ら、つい挨拶に顏を出すと、引込むしほを失つて了つて、その日の時間をつぶして了ふのが例であつた。
　おかねさんや貞子や、時次郎の母親たちの會話は、いつもくだらなかつた。ほんたうにたわいもない世間話の範圍から出ることがなかつたのである。それを、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

默つておつき合ひに聽いて居たり、たまには心にもない合槌を打つたりしなければならないのを、時次郎はいつも苦痛としてゐた。のみならず、おかねさんが來てから歸る迄は、貞子の心が自分から隔れてゐるのが彼には一層つまらないのであつた。貞子は、自分の妻でなくつて、おかねさんの妹になつてゐるのが時次郎には殊に厭なのであつた。

今日も時次郎は、例の通り自分の時間を棒に振つて了ふつもりで何も爲ないでゐた。

『明日は初午だからお稻荷さんにお詣りをして來ようよ。』

と、昨夜貞子と言つてゐたのであつたが、外出する氣になれないでゐた。戸外は北風が強く吹いて、雪もよいの空合であるのに恐れてちやかんでゐた。二階の狹い四疊半の襖を閉て切つて、火鉢を抱へてゐたが、たまらずに安火を拵へて這入こんだ。

『節分が過ぎるといふのにこれぢやあ堪らないね。』

『もうすこし寒さがゆるんでもいゝでせうにね…。』

『まつたく…しかしおかねさんもかう寒くちやあ出て來ないかな。』

『來ることは來ませうよ、閑なひとですから…。』

ふたりはかう言つて待つてゐたが、おかねさんは來なかつた。何日も十一時頃には遲くも來るのであるが十二時になつても來なかつた。おかねさんが來てからにしようと言つて、延ばしてゐた晝飯を濟まして了つてもおかねさんは來なかつた。

今日はもう來ないかもしれない。

時次郎はかう思つて、嬉しいやうな心持になつた。闖入する邪魔を拂つた快感を覺えて、爲事にでもかゝろうかとも思つたりしたが、もう今日は何もしないで遊んで了ふかとも考へた。彼は何もしないで、終日のんべんと暮して了つても、貞子と二人ぎりであるならば、決して空しくしたとは感じないのであつた。可成り有意義に其日を過ごし得たと思ひ得るのであつた。

（下）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかるに來なからうと思つてゐたおかねさんは、二時頃になつてやつとやつて來た。

さうして、時次郎と貞子の居る部屋に通つて、いつものやうに貞子と話をしてゐた。留守番を頼むおかみさんが不親切なことや、夫が近頃口やかましくなつたことや、此のせつ物價が高くなつて、日常の經濟が嵩んでしようがないなぞと、はてしなく話してゐたが、おかねさんは思ひ出したやうに話頭を轉じて、貞子に言つた――。

『この間御仲さんがお買ひなすつた青海波の半襟はようござんしたこと、……わたしあなたに買つて上げたいと思つたの……。』

『色合は何んなのでして?。』

『紫でしたよ――。』

『紫……紫はいゝわね。』

『青海波はほんとによござんすよ、……紫はきつとあなたに似合ふでせうと思つてよ。』

『……此頃は青海波が流行るのね。』

『さう、髮結さんでもかけてゐるんですもの……あなたが掛けないてないわ。』

『……。』

默つてうなづいた貞子は、時次郎の方に氣を兼ねたやうな視線を送つた。

時次郎は、直ぐと――愚にもつかないことだ――といふ意味の視線を報いた。が、乘氣になつて來たおかねさんは、そんな二人の心持もしらずに、貞子を誘惑するやうに言つた――。

『今日これから買ひに行きませうか。』

『さうね……お仲さんは何處で買つたんでせう?。』

貞子は誘はれるまゝに言つた。

はたでかうした貞子を默つて見てゐた時次郎は、あぶなかしくつてならなくなつた。貞子がおかねさんの誘惑を斷つてくれゝばいゝと思ふ時次郎は、眼の底に力をいれて貞子の樣子を見戍つてゐた。

『淺草ですつて、……こまかいのも粗いのも、何んなのでも淺草にはありますつて……。』おかねさんは膝を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

浮かせるやうにして言つた。

『何うも小川町あたりに行つても紫のはないんですよ……淺草に行けばあつたのでしたらうに……。』

『ありますとも、……お仲さんはさう言つていらしつたわ、お好み次第のがありますつて。』

『淺草ならね。』

貞子は、かう言つて、淺草をあこがれるような眼をかゞやかせた。

貞子が、すつかり動かされたと見た時次郎は、かう言はずには居られなかつた――。

『今日は隨分寒いよ、……風邪ぎみだつて言ふのぢやないかい。』

『襟だけで歸つて來ればそんなでもありませんよ、……ずつと電車なんですもの……。』

おかねさんは、貞子を唆るように言つた。

『風もなくなつた樣子ね。』

貞子は、もう行く氣になつてゐた。

何といふ馬鹿げたことだッ。

時次郎は、かう呟いたなり、彼等の成行きを眺めてゐた――が、時次郎は、今日貞子に出られるのが厭であつた。おかねさんが來たの丈けでも、自分は讓歩してゐる積りだつたのにと思はずには居られなかつた。

行つてはいけない。

と、さう言切つて了へば、彼女を家に引留めて置けると思つたが、時次郎は、それも我儘であるやうに思つた。自分が何とも口を出して言はないのに、心持を察して行かないで吳れるのでなくては嬉しくはないのであつた。

『あゝ、いゝよ。』

と、時次郎は、さりげなく言つた。が、――勝手にしろッ――と、呟かずにはゐられなかつた。貞子の心の底を見透かした腹立たしさに、彼は面をそむけた。

時次郎が貞子と結婚したのは、つい四ヶ月程まへのことであるが、その時彼はかう思つた――。

『貞子は本當に俺のものになつた。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらゆる事情と、いろんな故障を突破して此處に到つた上は、もう大丈夫だと彼は思つたのであつた。しかるに、その翌日から何となく時次郎の心は動搖しかけてゐた。――生家を離れた寂しさを持つ彼女に、兄に逢ひたがつてゐる彼女に、姉を懷しがつてゐる彼女に――、彼は不思議の眼を見張つたのであつた。

貞子と結婚したとき、時次郎は多大の感謝を彼女に捧げたのであつた。ぢつとしてゐさへすれば、何の不自由もない彼女であつた。さうして周圍もきらびやかであるし、交際も華美にして來たのであるから、勿論いまのやうな活計の爲めに心を勞することなぞは少しもなくつてすんだのに、自分の生活や境遇を知つてゐ乍ら來るからには、彼女は何も彼も自分から捨てて來たに相違ないと時次郎は思つてゐたのであつた。

しかるに貞子と同棲して見るとさうではないらしかつた。

貞子は貞子でいろんなものを彼女の心に持つてゐた彼女が自分と結婚した丈で、すべての滿足を得たものとしたのが間違ひであつた。

貞子は、自分なしでは生きられないのであつたにしろ、自分丈けでは生きられないのであつた。――と、彼はさう思はねばならなかつた。貞子は、毎日でも生家に行つて見たかつた、結ひ馴れてゐた髮結さんにでなければと言つては、生家の近隣に出かけたりした。忘れものをしたからと言つては生家を訪づれた。その都度、兄や姉の家を訪ねて來ないではゐられなかつた生家の方に行つて來ない日が三日も續くと、貞子の顏に寂しさが濃く現はれて來るのであつた。

それが、時次郎には大へん厭であつた。さうしてつまらなかつた。――しかし當座のことであらう――と彼は思つてゐたが、さうでなかつた。一月經ち、二月經ち、三月經つても貞子はさうであつた。

ちやんと貞子の體は家に來てゐる。同じ屋の下に起伏してゐる、朝も晩も一つ膳で飯を食つてゐ乍ら、貞子が本當に自分のものに成つてゐないやうなのがつまらなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以前の貞子の方が餘程ましであつた。

彼は時々さう思つて、結婚しないまへの頃の貞子を顧みないではゐられなかつた。

貞子は、自分の周圍の多くが、時次郎との情交を拒んでゐたにも拘はらず、彼に情を通はしてゐた。さうしてそれが爲めにさまざまな犧牲を拂ひつくして來た。爲ないですむ不自由もして來た。憚らずにすむものを憚つても、彼に愛を捧げて來た。それが、三年經つても、四年經つても飽かず變らなかつた。

『一緒になれさへすればね……。』

とは、かつて二人が同じやうに言ひ暮して來たものであつたが、それを今は實現してゐる。

さうしたことを彼は考へると、自分がつまらなくなつた、何故、あゝも二人が結婚を樂んだかゝ分らなかつた。

その日の夕暮は近づいた。

灰色の空は低くなつた。こまかい雪の花片がまばらに落ちて來た。

『もう歸つて來なくつたつていゝ、何處迄も行つて來るがいゝ……矢張お前はお前のものだ。』

時次郎は、時々かう呟き乍ら、淋しい自分の心を見詰めて居た。（大正七、三月四日作）

發行人より

△今年の冬の寒さは格別でしたが、やつと昨日今日になつてぽか〳〵する春の日を迎へる事が出來る樣になりました。讀者諸姉もさぞ同じ心もちで此の春をまち迎へられた事と思ひます。

△今年は物價騰貴も又格別でしたが、嚴寒の爲め品不足から暴騰してゐた野菜物は氣候のゆるみと共に品は增え日に〳〵價も安くなりつゝあります、其他の食料品も日用品も高いには高いですが、それ等は一般向の品である丈け、物價調節だとか何とかで廉賣市等の開かれた爲め、いくらかよくなりましたし又代用品や節約やいろ〳〵の工夫で何とでもなりますが、私共に取りまして一番恐慌なのは紙價の益々暴騰し、印刷の益々高くなる事です、去年の秋から又しても二割三割と、騰られたるは一再ではありません、併し頁數を減じて字をつめて內容をへらさない編輯の工夫によつて、持ちこたへて行く方針で今日まで來たのでしたが、今又騰られますので萬止むを得ず、壹部には貳錢の値上げをいたしましてつまり一ケ月拾參錢、半ケ年七拾五錢、一ケ年壹圓四拾錢と改正致します。それでも目下の處では尤も廉い雜誌だと思ひます。どうか皆樣あしからず承諾下され、ます〳〵御愛讀御後援の程を一重に御願申上ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川光二郎主筆

自働道話

平易簡明に、實踐道德、新道德を説く雜誌にして、四月號の要目下の如し

共同一致の働き（西川光二郎）双方の言分（彦根育太郎）天然療法（丸田善三郎）人生の幸福（鬼塚長次郎）初て世に出る青年へ（高島教授）

▲菊版二十六頁
▲一部郵税共六錢五厘
▲一年同七拾錢
▲毎月一日發行

新眞婦人社

新眞婦人合本（自一號至十二號）定價郵税共一圓

合本第二卷（自十三號至二十四號）同

合本第三卷（自二十五號至三十六號）同

合本第四卷（自卅七號至四十八號）同

職業教育が受けたい方は

若し若い婦人で、兩親から學資は出して貰へないが、體丈けは二三年許して頂けるから何か職業教育を授かりたいと云ふ方が御座いましたら御相談下さい、本社の賛助員の方で教育して下さる方が御座いますから。

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け
(1)職業を求むる御婦人
(2)職業の撰擇に迷ふ御婦人
(3)家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4)結婚の事
等の御相談に應じます。

▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後四時頃御出で下さい。

なほ右の件につき手紙で御相談下されば、直接又は誌上にて御答へすることにいたします。

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊	（郵税共）	拾參錢
半年分	（郵税共前金）	七拾五錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓四拾錢

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正七年三月二十八日印刷納本
大正七年四月一日發行

本郷區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込動坂町三二七
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA